

行事予定 (11月から3月)

11月

- 1日(木) 金曜振替授業
- 2日(金) 創立50周年記念磐陽祭準備
磐陽祭前夜祭
- 3日(土) 創立50周年記念磐陽祭
- 7日(水) 第3回TOEIC-IP試験
(3年・専1年)
- 10日(土) ~11日(日)
全国高専デザインコンペティション2012
(小山高専主催/白鷺大学東キャンパス)
- 13日(火) ~26日(月)
後期中間試験期間
- 25日(日) 全国高専ロボットコンテスト2012 (両国国技館)
- 28日(水) 金曜振替授業
- 29日(木) ~30日(金)
学年・学科行事日

12月

- 5日(水) 学生会役員選挙
- 8日(土) 専攻科社会人入試
- 16日(日) 吹奏楽定期演奏会
- 22日(土) ~1月6日(日)
冬季休業
閉寮
- 28日(金) ~1月3日(木)
学校閉鎖期間

2013年

1月

- 6日(日) 閉寮
- 7日(月) 授業開始
- 8日(火) 木曜振替授業
- 10日(木) 学習到達度試験 (工学系4学科3年生対象)
基礎学力標準試験 (数学)
(工学系4学科2年生対象)・他学生は臨時休業
- 16日(水) 専攻科特別研究中間発表会 (1年)
- 19日(土) 推薦による選抜試験
- 26日(土) ~27日(日)
全国高専英語プレゼンテーションコンテスト
(国立オリンピック記念青少年総合センター)
- 26日(土) 卒業研究発表会 (電気)
- 30日(水) 学生総会/専攻科特別研究最終発表会 (2年)

2月

- 1日(金) ~7日(木) 後期期末試験
- 15日(金) 後期授業最終日 (月曜振替授業日)
- 18日(月) ~22日(金) 補講期間
- 19日(火) 卒業研究発表会 (機械、コミ)
- 21日(木) ~22日(金)
卒業研究発表会 (物質、建設)
- 24日(日) 学力検査日
- 26日(火) ~3月4日(月)
再試験期間
- 28日(木) 寮送別会

3月

- 1日(金) 終業式
- 7日(木) 地域テクノフォーラム
専攻科特別研究公開発表会 (2年)
- 15日(金) 卒業証書・修了証書授与式
(いわき芸術文化交流館アリオス)
- 16日(土) 閉寮

入学試験の日程

【専攻科】●社会人特別選抜

- ・出願期間 11月26日(月) ~ 11月30日(金)
- ・選択試験日 12月8日(土)
- ・合格発表日 12月13日(木)

【本科】●推薦による選抜

- ・推薦入学願書受付期間 2013年 1月4日(金) ~ 8日(火)
- ・推薦による選択試験日 1月19日(土)
- ・内定通知発送日 1月24日(木)

●学力検査による選抜

- ・願書受付期間 2月8日(金) ~ 13日(水)
- ・学力検査日 2月24日(日)
- ・合格発表日 3月1日(金)

編集後記

93号の学校だよりを発行できました。ご協力頂いた皆様に御礼申し上げます。創立50年、様々なところで50年という時間の重みを感じました。学校だよりが、その瞬間とも言える時間を切り抜いて福島高専の空気をお伝えできていれば幸いです。

広報委員長 内田 修司

学校だより

Vol. 93

2012.11

祝 福島工業高等専門学校創立50周年記念式典



Contents

- 02 校長 入学式辞
- 04 三主事・専攻科長あいさつ
- 05 各科の近況
- 08 インターンシップ報告
- 15 一日体験入学を終えて
- 16 学生の活躍・クラブ活動等の結果
- 20 部活・サークル活動紹介
- 22 新任教職員紹介
- 28 ミニ研究発表会
- 29 校内体育大会
- 30 高専体育大会・ロボコン
- 31 50周年記念式典



第51回 入学式



第51回入学式及び 平成24年度編入学式 並びに第9回専攻科入学式式辞

福島工業高等専門学校長 奈良 宏一

めに、先輩達に負けずに活躍ができるよう、本校でしっかりと勉学を積み重ねていただきたいと思います。

福島高専は、東日本大震災からの地域の復興を支援するために、昨年度、地域復興支援室を立ち上げました。この支援室に新たに教員を配置し、震災や津波からの街の復興、並びに、福島県が目指す原子力依存からの脱却と再生可能エネルギーによる産業振興の支援のために、減災、原子力安全及び再生可能エネルギー分野での教育・研究による人材育成に取り組んでいます。この人材育成と教育研究のために、本校に、さまざまな教育研究設備が導入され、今年度から本格的に地域支援をスタートする予定です。本日入学した皆さんも、ぜひ、地域が必要とする技術分野で故郷再生を支える事が出来る人材になることを目指して勉学に励んで下さい。

皆さんは、これから、本校で専門的な知識を身につけていくわけですが、本校では、どのような勉強をすべきかがわかるように、教育理念、学習・教育目標、養成する人材像、卒業時に身につけるべき能力などをきめ細かく定めています。教育理念だけを簡単に説明しますと、まず、本校の教育理念の第一は「広く豊かな教養と人間力の育成」です。皆さんは、将来の職場のリーダーとして、まず、技術や専門知識以前に幅広い教養と人間力を養わねばなりません。

教育理念の第二は「しっかりした基礎力に基づく創造性と実践性の育成」です。本校では、専門基礎力と実践的実験・実習を重視して教育を行い、皆さんに、創造性と実践性を兼

ね備えたイノベーションを起こしうる専門家に育ててもらいたいと思っています。

第三は「国際性とコミュニケーション能力の育成」です。現在のようなグローバル化した社会では、異なった環境に住む人々と、相手に尊敬の念を抱きながら情報交換できるだけの知識と教養を身につけておく必要があります。

この3つが教育理念ですが、その下に6項目の学習・教育目標を定め、さらに、個々の教育目標の具体的な項目を掲げています。本校で勉強する皆さんには、能力の一つ一つが身についたかどうかを半年ごとにチェックシートで確認しながら勉強してもらうことになっています。

高専は、これまでの中学校とは違い、先生に勉強を教えてもらいにくる場所ではなく、そこで自ら勉強をするための高等教育機関です。講義等では、自ら疑問を持ち、自ら調べ、わからないところを先生に質問して確かなものとする姿勢を保って下さい。本校では、皆さんが本校で得る実力を確かなものとするために、教員がきめ細かな指導を行ったうえで厳密な試験と採点を行っています。1点足りなくても単位を取得できませんし、その学年の必修科目が1単位だけ足りなくても進級できません。年度末になって困らないように、普段から計画的に勉強してください。

その一方で、高専で学ぶ5年間では、勉強と同時にクラブ活動を楽しみ、かつ、何でも話せる友人を作ってください。クラブ活動や友人によって皆さんの人間力が育かれます。

福島高専は、卒業後のさまざまな進路を提供しています。5年間の課程を終えて準学士の称号をもって就職することもできますし、本校の専攻科に進み、大学卒と同じ学士の学位を得ることもできます。また、大学の3年生への編入学への道や、高専卒業生のための大学である技術科学大学へ進学して修士または博士までの工学一貫教育を受ける道もあります。今から、保護者と相談して自分が進む道を見据えながら、日々健康に気を付けて、夢と希望を持って勉学に励んで下さい。

次に、専攻科への入学生諸君。諸君は、本科5年間で修得したことを基礎に、専攻科でさらに高度な基礎科目と専門科目を学ぶこととなります。

本科4、5年から専攻科までの本校の工学系カリキュラムである「産業技術システム工学」プログラムは日本技術者教育認定機構（英語表記の頭文字を並べてJABEEと呼んでいます）から世界水準の工学系大学教育プログラムであることが認定されています。ビジネス系のコミュニケーション情報学科から進学するビジネスコミュニケーション学専攻も、本年度、経営工学分野でこのJABEEの審査を受ける予定です。JABEE審査では厳密な試験・採点と厳密な単位認定がなされているか否かを厳しく審査されますので、甘い成績評価は決してありません。緊張感を持って勉学に励んで下さい。

専攻科の教育プログラムを通して、諸君には、特に、地球的視野で考えられる能力、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力、新しい産業技術を創造できる能力を養ってもらうとともに、教育・研究を通じて地域の復興に貢献していただきたいと思っています。専攻科生として後輩の良き手本となるように日頃の勉学に励んで下さい。

大学院への進学など将来の自分の進路を考えて、今から計画的に勉強をしてください。

最後になりますが、日本が、東日本大震災から復興するまでには、まだ十年単位の時間がかかります。本日入学した皆さんが本校を卒業する頃は、復興の先まで見た日本再生の槌音が最も大きくなる時期であり、卒業後、皆さんは、その直中に入ることとなります。

皆さんが本校を巣立つまでに、人間力、創造力、実践力、コミュニケーション能力を身につけ、災害に強く、かつ、世界に負けない新しい日本を創世するための大きな力となるまでに成長していることを祈念して、式辞と致します。





震災復興人材育成の本格的な開始

教務主事
青柳 克弘

本年度から震災復興のための人材育成が本格的に始まりました。夏季休業中に、本科5年生を対象として集中講義で「環境・エネルギー工学」を実施しました。後期からは金曜日の7、8校時目に「放射線管理学概論」、「防災通信工学」が開講されています。受講者数がそれぞれ28名、47名、38名と多く、関心の高さがうかがわれます。平成25年度からは専攻科に復興人材育成特別コース（学生定員5名増）を設置し、再生可能エネルギー、原子力安全、減災工学の3分野において地域復興に必要な教育を実施します。新たに配置した教員と関連分野の教員が連携して、本科の基礎の上にさらに専門性を深め、かつ震災復興で活躍できる知識をもつ人材を育成します。来年度の専攻科入学内定者27名（10月1日現在）の内15名がこの特別コースを選択しており、地域復興のために役に立ちたいという学生の強い意欲を感じます。この他にも、社会人特別教育プログラムと称して中小企業の従業員の技術力と知識の向上を図って地域企業の競争力を高めるとともに、被災者の雇用機会拡大に貢献することを主な目的とした社会人教育も行います。

以上のように本校は総力を挙げて復興に貢献できる人材の育成に取り組んでいきます。



寮の近況報告

寮務主事
鳥居 孝栄

昨年度から引き続き寮務主事を務めております鳥居です。震災後の建物の修復は、ほぼ完了しました。ただ、原発の影響などで、いまだに通学が困難な学生がいますので、今年も寮で受け入れて支援しています。また、昨年震災の関係で中止となった、新入寮生歓迎の行事である新舞子ウォークについて、実施するかどうか検討しましたが、まだ新舞子近辺の復興が十分ではないということで、今年も実施を見送り、それに代わる行事を行うこととしました。いろいろアイデアを出し合って検討した結果、歓迎の運動会を実施することになりました。結果は、大成功で、寮生にも大変好評でした。ただ、新舞子ウォークという行事も大変伝統があり、有意義な行事であるので、来年度以降は、今回成功した運動会を継続していくのか、新舞子ウォークを復活していくべきか、検討していくこととしました。

また、震災後の修復以外にも、生活環境・施設設備の整備改善は今年度も進めていきます。特に女子棟の安全・管理面の充実を図りたいと考えております。



思いやりの絆

学生主事
鈴木 三男

私も本校に赴任して30年近くになります。私が年をとったせいか、最近の学生は素直で真面目である反面、何か心の余裕がなく、クラスや学科内での学生間の連帯感が薄れ、福島高専生としてのプライドが段々失われて来ているように感じています。

今年は本校創立50年の節目の年です。加えて今年は東北地区高専体育大会、ロボコン東北大会、校内体育大会、磐陽際などが開催される年でもあります。これらの行事を成功させるには、教職員と学生会を中心とした学生の協力が不可欠です。学生一人一人が積極的に協力しあい、その結果を互いに共有することで、互いに思いやりのある強い連帯感という絆が生まれるはずで、ぜひ、学生諸君にはこれらの行事を通して、思いやりの絆を築いてもらいたいと思っています。

社会の規則を守る心、他人への思いやりの心、自律心の育成は本校の教育理念です。これからも保護者の皆様のご理解を頂きながら、学生指導に力を入れていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。



専攻科の近況

専攻科長
大槻 正伸

昨年度は大震災があり大変な年でしたが、今年度は落ち着きを取り戻し専攻科では例年通り授業、研究等を行っております。

7月には1年生の第1回特別研究発表会があり、各自今後の研究の方向性について発表しました。2年生は9月中旬に全員学位授与機構に提出する学修成果レポート等の書類を整備しました。12月には学位小論文試験がありますが今年度も全員の学位取得を目指します。

さて、福島高専では今年度初めてフランスとの交流を始めました。まず4月～6月にはフランスからの留学生2名を受け入れ、9月には学生を3名（内専攻科生2名）フランスに派遣しました。3名は約1カ月の研修後10月初旬に帰国しました。来年度以降も専攻科生を中心にフランスへの留学生派遣を活発に行うことを考えております。

来年度からは文部科学省の「大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業」の予算により、専攻科に「復興人材育成特別コース」が設置されます。これは再生可能エネルギー、原子力安全、減災工学の3分野の知識を習得し、復興で活躍できる人材を育成するものです。

このように、専攻科では新たな取り組みをしつつ教育・研究の充実に向けて取り組んでまいります。



一般教科の近況

一般教科長 高野 克宏

平成23年度末から今年度半ばにかけて、一般教科では大幅な人事異動があり、多くの先生方を見送るとともに、新たにフレッシュなスタッフを迎え入れました。

まず、昨年度末をもって本校を退任し、転出された先生方は次の通りです。井川治先生（数学科）・新井広先生（数学科）・坂内昌徳先生（英語科）・道上達広先生（物理科）・中山悟視先生（英語科）・島袋修先生（数学科）。各教科の教育に、そして、さまざまな場面での学生指導に、それぞれの持ち味を發揮して活躍してこられた多くの先生方が転出されたことは一般教科として残念でありませんが、皆さまの今後のご活躍をお祈りするところです。

入れ替わって、新井真人先生（物理科）・市川誠先生（英語科）・廣瀬大輔先生（数学科）・飯田毅士先生（数学科）の4名が4月に、次いで、加藤明子先生（英語科）・澤田宰一先生（数学科）が10月に着任しました。6名の先生方は、それぞれの分野で素晴らしい研究業績を挙げておられるとともに、教科教育・学生指導に強い情熱をお持ちです。

一般教科においては、福島高専の専門教育を支える基礎的能力を養うことを目標として、実力・個性ともに優れた教員が日々努力を積み重ねております。



機械工学科の近況

機械工学科長 高橋 章

今年度の5年生の進路は、18人が進学希望で、このうち7人が東京大学を含む大学編入学、8人が本校専攻科に合格しております。残りの3人は推薦入学の大学受験を予定しています。また、24人が就職希望で、このうち3人が公務員試験受験のために勉強中です。10月になってから募集する企業もあり、全員の進路決定までは、もう少し先になります。

さて、優秀な機械技術者を育てる「異学年協働によるループ型創造性実践教育」は、平成21年度から23年度までの3年間、文部科学省の大学教育・学生支援推進事業に採択されて予算を受けていた大学教育推進プログラムです。このプログラムは昨年度で終了しましたが、今年度も学内外の予算を獲得し、昨年度までとほぼ同様に実行しております。その内容は、市民に役立つモノ（機械）を創るために、まず2年生がアイデアを出し、そのアイデアに対し、専門科目を十分に学習してきた5年生が設計を行います。翌年、その設計を基にアイデアを出した学生が3年生となって、実際に機械を製作するというものです。10月に入ってから今年度2回目の2年生による企画の発表会が行われました。さらに4年生になると自分たちの経験を3年生や1年生へ講話を行います。機械工学科の1年生から5年生までが何らかの形でこの教育に関わっており、卒業後は産業界などにおいて大いに活躍してくれることと確信しております。



電気工学科の近況

電気工学科長 鈴木 晴彦

電気工学科は、教職員スタッフおよび教育カリキュラムとも平常な状態で、平成24年度をスタートすることができました。さて最近の話題として、電気工学科助教の植英規（うゑ ひでのり）先生（本校電気工学科卒）が、「平成23年電気学会優秀論文発表賞」を受賞しました。授賞式は先月の9月20日、平成24年電気学会A部門大会（秋田大学）で行われました。これは、本電気工学科が平成13年度から継続して実践してきた「モノづくり実習（4年生の創作実習）」の、平成22年度の取り組みを、電気工学科教職員の代表として研究会で報告した内容が評価されたものです。

加えて4月より、モノづくりセンター技術職員（おもに電気系実験実習指導を担当）として、谷地館藍（やちだて あい）氏を迎えることができました。谷地館氏は福島高専電気工学科の卒業生であります。在学中においては、電気工学科の「モノづくり実習（創作実習）」を積極的に取組んだ経験がありますので、着任当初より「モノづくり教育」の最前線で活躍していただいております。

さて、昨年度に引き続き、震災による社会経済への影響が大きく、今年度の就職活動も厳しい状況であります。しかし現在、本電気工学科5年生の就職希望者のほとんどが内定を得るに至り、また進学希望者も概ね進路を決定しております。これからは平成25年春の卒業に向けて、学習・研究に邁進するものと期待しております。

各科の近況 [本科]



物質工学科の近況

物質工学科長 天野 仁 司

今年度は震災前の行事予定に戻り、桜の下に新入生を迎えることができました。物質工学科の新入生は、例年以上に勉学に励み積極的な学校生活を送っていると、担当の教員から聞いています。私たち教職員も、新入生が過ごす5年間を有意義なものとするために、最大限の支援をしたいと考えています。

物質工学科の3年生は、前期の創作実習の授業で手動制御の小型電動車をつくり、最後に対戦型の競技会を行います。今年は初めての試みとして、9月末の補講日に競技会を行いました。これは、夏休みの期間に、集中してモノづくりに取り組ませたかったからです。その甲斐あって、例年にない完成度の作品が、白熱した試合を繰り広げました。教育は一日にして成らず、覚えるだけでなく考える時間が大事であると、再認識させられたイベントでした。後期のマイクロコンピュータ制御の課題も、大いに期待できそうです。

教職員では、14年半お勤めいただきました鴨下先生が、前期で退職されました。福島高专では、微生物・培養工学系の授業を担当いただいたほか、吹奏楽部の指導教員として、学生の指導をしていただきました。後任には、11月1日に尾形先生が静岡大学から着任されています。



建設環境工学科の近況

建設環境工学科長 緑川 猛彦

今年度から建設環境工学科長を拝命致しました。年齢的には上から5番目でまだまだ若輩者ですがよろしくお願ひ致します。さて、建設環境工学科の教員団ですが、育児休暇中の田村綾子先生のピンチヒッターとして、4月より2年間の任期付で林久資先生を迎えました。林先生の専門は山岳トンネルですが、学生時代にティーチングアシスタントとして測量を教えた経験があるということで、現在は測量学および測量学実習をメインに授業を担当しております。その他は昨年と同様で、男性教員9名女性教員1名の計10名で授業を行っています。また学生

の動向についてですが、建設環境工学科への女子学生人気が継続的に高まっていますが、とうとう今年度の1年生では女子学生数が19名となり工学系学科でトップになりました。全体では69名であり学科の33%を女子学生が占めることになります。建設業界での女性の活躍が目覚ましい中、この中から日本を代表する女性技術者が育ってくれることを願うとともに、男子学生にも底力を発揮してもらいたいと思っています。就職・進学状況については例年通り好調です。昨年度からの震災特需で民間企業の求人数が増加している事に加え、福島県職員やいわき市職員等の地方公務員の求人数が大幅に増加しており、就職希望者にとってはより選り取り見取りの状況です。進学ではこれまでの大学編入に代わり、本校専攻科の人気も量・質ともに増加傾向にあります。

以上のように、学科全体としては順調ですがこれも学生の実力のおかげです。この実力を継続できるよう建設環境工学科教員一同取り組んで参りますので、ご家庭におきましてもご支援ご協力のほどよろしくお願い致します。



コミュニケーション情報学科の近況

コミュニケーション情報学科長 坪井 晋也

コミュニケーション情報学科では、今年度42名が入学しました。また、卒業予定の5年生35名については、ほぼ全員の進路が定まりつつあります。1年生については、だいぶ学校生活に慣れてきた頃でしょう。5年生は、就職される方、進学される方と二分されますが、双方とも期待と不安の毎日ではないかとおもいます。

これまで、高专の文系学科という存在が、社会でなかなか理解されていなかった面は否めませんが、最近では、OG、OBの活躍から、徐々にではありますが、その知名度、理解度が高まってきたことが実感されるようになりました。

OG、OBの就職先においても、また進学先においても、高く評価されて、積極的に採用、進学受け入れがなされているといえます。

今年は、創立50周年記念事業などもあることから、こうした様々な機会を利用して、さらにその知名度、理解度を高めていきたいと考えています。

各科の近況 [専攻科]



機械・電気システム工学専攻の近況

機械・電気システム工学専攻長 鈴木 晴彦

平成24年4月、新たに8名が機械・電気システム工学専攻へ入学し、2年生8名と合わせ16名の在籍となり、専攻科の平成24年度授業がスタートしました。

今年度の専攻科生のインターンシップは、昨年度同様、実施期間を約2週間程度に短縮しましたが、現在までに全員が無事実施することができました。特に今年度から、東北地区高专とフランス北部（ノール・パド・カレ地域）にあるIUT（技術短期大学）との交流協定による国際インターンシップが始まりました。本校からは本科4年生1名、専攻科生2名が、約5週間のプログラムに参加しましたが、本専攻からは男子学生1名が、フランス北端部の街カレー（Calais）にあるIUTでインターンシップを実施しました。私は約1週間引率しましたが、現地での本校学生の積極的な行動は大変素晴らしいものでした。

一方、2年生の就職活動も幸い順調に進み、8月には就職希望者全員が内々定を頂きました。内定先は、日立製作所、NTTファシリティーズ、日新電機、また地元企業では古河電池、常磐共同火力であります。また進学希望の学生が東北大学大学院、東京工業大学大学院への進学を決定しました。今後は12月の学位試験に向け、更なる活動が続きます。



物質・環境システム工学専攻の近況

物質・環境システム工学専攻長 車田 研一

本年度、物質・環境システム工学専攻は1年生7名、2年生11名でスタートしました。2年生については、過年度生1名が前期で修了し、ほか10名は後期開始を待たずして全員来春の修了後の進路が決まりました。むろんこれは学生各人の努力・研鑽のたまものと考えています。1年生は今夏それぞれにインターンシップにとりくみました。それぞれに学ぶところ、感じる場所が多かったと思います。御協力いただいた各企業・大学のスタッフ様方へは感謝の念が

たえません。

今年度は、5か年プロジェクトの地域復興人材育成事業を担当される特任教授の霜田宜久先生、佐藤正知先生がスタッフに加わりました。また、前期いっぱい、当福島高专に14年半おつとめいただいた鴨下祐也先生（物質工学科）が御都合で職を退かれました。

社会状況ふくめ、高等教育機関の針路に影響をおよぼすようなうごきはつねにいろいろとあります。しかし、わずかに数年の学校生活で修得できることがいかに一見大海のなかのしずくのように量的には限られていても、遠い将来、卒業生に「たかが学校、されど学校 あればよかった」といってもらえるような、ながもちする勉学の場ができるよう、われわれ専攻としてくじけずに尽力を続けていくことが肝腎だと思っています。



ビジネスコミュニケーション学専攻の近況

ビジネスコミュニケーション学専攻長 渡部 美紀子

本専攻には、平成24年度6名の新入生が入学し、そのうち1名はカナダへ1年間の予定で留学しています。1年生5名と2年生5名とを合わせて計10名で本年度の授業がスタートしています。

4月から10週間にわたって、提携校のカレー科学技術大学からニコラとショナの2名のフランス人のインターンシップ生を受け入れました。国際交流委員長はじめとしたご尽力もあり、また芥川教授にはスーパーバイザーとしてお世話を頂き、2名とも大変満足して帰国の途につきました。

1年生のインターンシップに関しては、当方からリールAへの海外参加者もあり、バラエティに富んだ内容になりました。それぞれに貴重な体験となったのではと思っています。

また本年度の2年生は全員就職を希望しており、すでに3名は内定をいただいております。小論文試験や最終発表等、これからも2年生にとって大事な予定が詰まっています。最終学年の最後の半年を、悔いのないよう過ごして欲しいと考えています。

本校では、4年生と専攻科1年生に、校外実習・実務研修などの科目を設定し、企業などの協力を得て、インターンシップを実施しています。校外、実務の場身を置くことで、技術者の役割を認識すること、学校で習得している知識が実社会でどのように活用されているのかを理解することをそれぞれの学生が理解することを目的としています。本校では、個々の経験をそれぞれの学習に活かし、社会人として必要とされる知識などを卒業までに身に着けるように、教育と指導を行っています。

キャノンアネルパでのインターンシップ 機械工学科4年 高紫 貫爾

私のキャノンアネルパでの1日は、朝のラジオ体操から始まり、配属先の装置開発部というところで、朝礼、勉強会に参加し、主にCADでの設計や、3Dモデルを使用した応力解析などを行いました。CADは学校での授業よりも詳しく学ぶことができました。さらに、2週間のインターンシップで会社の社員さんと生活を共にし、普段学校では学ぶことのできないリアルを知ることができました。どんな雰囲気で行っているの？食堂はどんな感じなの？休み時間の過ごし方は？など、会社の1日の流れを通して、さまざまな疑問を解決することができました。

私はインターンシップに行くまで、会社は学校の延長のようなものだろうと考えていました。しかし、会社と学校は全くの別物でした。会社では何をすることも責任を持たなければなりません。社員1人1人がプロフェッショナル意識を持って仕事に取り組んでいます。そんな中で貴重な経験をすることができて、たった2週間で大きく成長できたと感じました。今回の経験をこれからの生活に生かし、将来そんな技術者になれるよう日々精進していきたいと思っています。

キューピー株式会社でのインターンシップ 機械工学科4年 中藤 夏海

今年の夏休み、私は茨城県にあるキューピーの五霞工場にてインターンシップをさせていただきました。

今回、私が配属したのは、ドレッシングの多品種少量生産をしている「製造三課」というところです。

作業は、瓶やボトルをベルトコンベアに延々と乗せたり(今回のインターンシップ中だけでも1万本以上は乗せたと推測されます)、ドレッシングの材料を仕分けたりしました。この仕分け作業は、一つ一つの材料を測り



終わる度に何度も本人チェックや承認の確認が出る仕組みで、そういったシステムがキューピーがモットーとしている「安全で高品質」な商品を作り出しているのだなと感じました。

また、配属先の方の配慮により、作業の合間に製造三課だけでなく他の課の内部も工場見学をさせていただくことができました。様々なところにボトルやキャップ、ラベルなどを確認するセンサがあり、そして大量のドレッシングが高速で流れていく光景は実に圧巻でした。食品関係の製造機械にとっても興味がある私にとっては、この工場見学はすごく貴重な経験でした。

今回のインターンシップでは、仕事に伴う責任、そして周りの方とのコミュニケーションをうまくとることの重要性について学びました。こういった、得ることができた経験を今後の生活や、来年の就職活動に活かしていこうと思います。

インターンシップを終えて 電気工学科4年 阿久津祐哉



私は、京セラ福島棚倉工場にインターンシップでお世話になりました。京セラは、半導体部品をはじめとする電子部品、耐熱や耐摩耗に優れたファインセラミックス、太陽光発電システムなど、幅広く事業展開している企業です。

その中で私が今回お世話になったのはPHSやその基地局、3G端末といった通信機器を製造している工場、部署は品質保証部に配属させて頂きました。今回の研修の内容としては、まず製品の中に使われる部品の不具合や不良がないかを見つける検査を行いました。この作業は製造の最初の工程なので、後々製品自体に不具合を出さないための重要な作業



でした。その次に、完成した製品を出荷する前に、本体を検査する出荷検査を行いました。それから、ユーザーから不具合として返却された初期返却品の不具合状況の確認作業を行いました。この作業は製品にどのような不具合、不良があるかを確認・統計することによって製品の品質向上につなげます。不慣れながらもやりがいのある仕事でしたし、自分なりに理解して取り組むことができたと思います。

今回の研修では、日頃学べないことを自らの体で体験することができ、充実した一週間を過ごすことが出来ました。また、企業で実際に作業に取り組むことで自分の就職への印象が以前より明確なものとなり、仕事をすることに対する興味・関心が深まりました。この研修は私にとって貴重な経験となりましたし、この経験を自分の将来に生かしていきたいと思っています。今回お世話頂いた企業の方々にはとても感謝しています。



フジキンでの研修を終えて 電気工学科4年 齋藤 匠



なければいけない作業でした。

今回のインターンシップでは、学校では学ぶことのできないいろいろなことを学ぶことができました。特に大切だと思った



今回は、インターンシップで株式会社フジキンの筑波フジキン研究工場に5日間お世話になりました。株式会社フジキンは、半導体用超精密バルブ機器や宇宙開発用超精密バルブ機器などのバルブ機器を中心に製作している会社です。バルブ機器以外では、海洋開発用ながれ(流体)制御システム機器を研究しています。この機器のノウハウを活かして筑波工場では、チョウザメの孵化制御や飼育技術、水質制御の技術開発が行われています。

今回、私が配属された部署は生産管理課というところでした。この課では、梱包、発注通りに数を合わせる作業、出荷などを行っていました。梱包作業は、小さな部品から大きな部品を決められた入れ方で箱詰めしました。出荷作業は、リストを見ながら荷物を段ボールにつめたものがそのまま出荷先にいってしまうため、特に慎重にし

た。雰囲気はいいことによって、連携がうまくとれ、いい仕事ができるんだろうなと思いました。



企業でのインターンシップ 物質工学科4年 紺野 貴裕

私は株式会社クレオへ2週間、インターンシップに行ってきました。最初は、どのような人たちとどのような仕事をするのか分からず不安ばかりでした。しかし、実際に現場に行ってみると、とても親切な方たちでとても楽しくできました。クレオでの仕事は最初の1週間は開発実験の手伝いをさせていただきました。これはある一定時間経過後の残留塩素濃度を調べる実験でした。こちらは学校でもやっている作業があったので、いつも通りにできました。2週間目は会社にあった機械などを使って、創作をしました。創作は慣れない作業ばかりで少し抵抗がありましたが、会社の方がしっかりと丁寧に教えてくれました。



クレオでのインターンシップは、他の高専からの参加者もいました。全国の高専から自分を含めて5人いま

た。さまざまな高専からきていたこともあり、それぞれの高専の話を知ることができました。

また、2週間の間に会社の方に何度か食事に連れて行ってもらいました。会社の方には、高専を卒業して、就職をした方もいらっしゃり、楽しく会話もでき、面接をするときに気をつけることなど、これからの就職をする際に、気をつけることを詳しく聞かせていただきました。

今回のインターンシップを通して、たくさんの人と出会い、いろいろなことを学びました。この経験はこれからの学校生活や将来の就職活動などに活かせる大切な経験となったと思います。



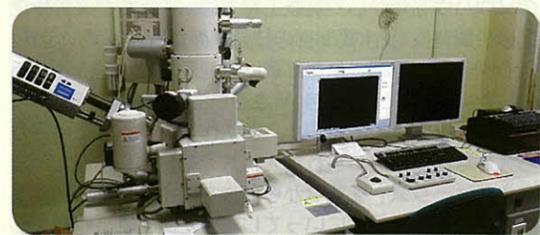
大学でのインターンシップ 物質工学科4年 小泉 亜未

私は9月10日から9月14日までの5日間、山形大学物質化学工学科穴戸研究室にて実習を行いました。主に、「木質バイオマスを原料としたメタノール水蒸気改質触媒調整」という、研究室の学生が今年度の卒業研究で行っているテーマをもとに、実験を行ったり、講習を受けたりしました。



実習では、熱天秤や窒素吸着装置、ガスクロマトグラフィー、走査型電子顕微鏡（SEM）といった、これまで使用した経験のない装置を使わせていただきました。高価な装置もあり、操作する際は緊張しましたが、良い経験になりました。特にSEMによって粒子の表面を撮影したことは非常に心に残っています。このように新しいことを学ぶ一方、試薬の調整方法などでは共通点があったり、普段の授業で学んでいることが役立つこともありました。そのため、高専での学習をもっと頑張らなくては行けないと改めて感じました。

高専しか知らない私には、大学での生活はとて新鮮で、視野が広がったように感じました。また、高専と大学の違いも多く感じました。特に感じたのは、高専では何かと先生方に頼りがちですが、大学では自分のことは自分でやらなければいけないことが多いということです。これから社会に出るためには、もっと人間的に成長していかなければならないと思いました。進学を考えている私には、山形大学での5日間はとて勉強になり、充実したものになりました。今回学んだことを無駄にせず、残りの高専生活に役立て、将来につなげていきたいと思っています。最後に、忙しい中、実習の機会を与えていただき、お世話していただいた山形大学の穴戸先生、および穴戸研究室の皆さんに感謝いたします。



東日本旅客鉄道株式会社 建設環境工学科4年 竹村 瑞希

私はJR東日本 大宮支社 設備部 設備土木課において2週間のインターンシップをさせていただきました。短い期間ではありましたが、今回のインターンシップを行うにあたって与えられた課題である「JR東日本の安全安定輸送に対して、保守土木部門が果たす役割」についてしっかりと考えさせていただきました。



私が配属された設備土木課は、主に鉄道関連施設の防災工事や老朽化対策などを担当しています。新しく「作る」という

仕事に対して、既存のものを「守る」という仕事に大変興味がありインターンシップに応募しました。

私は今回本当に多くの現場を見学させていただきました。事前に社員の方と連絡を密に取り、勉強したい内容に沿ったカリキュラムを作っていただいたので、毎日が驚きと感動の連続でした。知らないことばかりで質問の連続であったにもかかわらず、みなさんの丁寧な御指導のおかげで着実に理解を深めることができました。

耐震補強工事や風防災、雨防災や劣化対策などさまざま

な現場を見学させて頂いて最も感じたことは、携わる人々の数の多さでした。私たちが当然のように利用している鉄道を動かす為に、毎日膨大な数の人々が汗を流しています。安全であることはたしかに当然のことであり大前提ですが、決して簡単なことではありません。現状に満足することなく、より高い安全性を実現する為に誇りを持って仕事に取り組む姿は本当に素敵でした。

また、社員の方とのフリータイムの時間を設けて頂き、さまざまなお話を聞かせて頂いたのも今後の勉学及び就職活動に向け大きな糧となりました。この2週間で学んだことを決して無駄にせず、悔いのない学生生活を過ごせるよう、頑張ろうと思います。JR東日本のみなさん本当にありがとうございました。



インターンシップを通して学んだこと 建設環境工学科4年 吉田 将大

私は大阪ガスにインターンシップをするに当たり、特に知りたいことが2つありました。



1つ目は、大阪ガスが環境保全のためにどのような取り組みを行っているのかについてです。大阪ガスの使う天然ガスは環境にも優しく、人体に影響もないクリーンなエネルギーでした。また、大阪ガスの作っている機器には、環境に配慮した作りになっており、省エネで動かせるものばかりでした。他にも環境面だけでなく、地震対策などにも万全を期していました。

インターンシップを通して、私は進路自体まだ曖昧でしたが研修をしていくうちに高専卒、大学卒から就職した時の違いなど自分の知りたい部分が生の声で聞け、今後進路を決める上での重要な資料となりました。また、どこの事業所へ行っても社内の雰囲気がとてもよく、社員の方もとても元気で、優しい方たちばかりでとても楽しく研修をすることができました。また、大阪という、地元から遠く離れた場所で1週間すごし、とても貴重な経験ができ良かったです。また他の高専生と交流をし、皆しっかりと自分の進路を決めており、自分の考えの甘さも思い知ることができ、知識の面だけでなく心の面でも大きく成長することができました。これを機に、今後の高専生活をより一層努力していきたいと思っています。

2つ目は、高専で学んだ知識は会社に入って活かせるものはあるのかについてです。高専卒の社員の方々に聞いたところ、大阪ガスに限りますが、業務に活かされる知識はほとんどなく、むしろ入社してから学ぶべきことの方が多く、高専での勉強よりもずっと大変だと伺いました。しかし、大阪ガスの業務は様々あり、大変なものばかりなのですが、どれもやりがいのあるものばかりでした。



インターンシップを通して

コミュニケーション情報学科4年 根本 瞳

私は8月13日から24日までの2週間、文部科学省の文教施設企画部施設助成課でインターンシップをさせていただきました。施設助成課では小中学校・特別支援学校・小中一貫校における学校整備や耐震強度についての調査や業務を主に行なっています。特に東日本大震災以降、重点を置いている耐震強度については直接都道府県に出向いて改善を促すほか、資金の援助など、耐震化に特に力を入れていました。さらに、学校の建物だけでなく天井や照明などの非構造部材の耐震化についても調査もしていました。耐震化以外にも太陽光パネルを学校に設置することや緑のカーテンを利用することをはじめと

したエコスクール、地元の木材利用の推進、老朽化した学校施設の対応、統廃合によって使われなくなった学校や生徒数減少による余裕教室の再利用、特別支援学校の教室不足などについて地方公共団体への支援を行なっています。また、金曜日の夕方にはインターンシップ生を4つのグループに分け各自の実習内容や事前に配布された資料に書かれている議題について討論を行う意見交換会があり自分の配属している課以外の仕事についても話を聞く機会があり、充実した2週間を送ることができま

した。インターンシップを通して、エクセルを扱う他に、資料をわかりやすくかつ見やすくするなど、現在学校で学んでいることが実際の仕事の現場で役立つことを実感することができました。今後の授業がどのような仕事に役立てることが出来るのかを考えるきっかけにもなり、学校生活をより有意義に過ごすことの大切さを学ぶことが出来ま



インターンシップを終えて

コミュニケーション情報学科4年 佐藤あゆみ

私はいわき芸術文化交流館アリオスの広報グループでインターンシップをしました。

アリオスには毎日子供からお年寄りまで多くの人々が訪れます。その人々の声を聞いて背中を押したり、活動を応援したりするのもアリオス広報の仕事です。私はメディアに情報を伝えるだけが広報の仕事だと思っていましたが、アリオス開館当初からのアウトリーチ事業である「おでかけアリオス」の活動に触れてそのことを学び、市民と同じ目線に立ちとうとする考え方に深く共感しました。

8日間の研修でしたが、広報の仕事のみならず様々な挑戦をさせていただきました。中でも一番印象深いのは同期間中にインターンシップに来ていた大学院生の方と「U-18もやもや会議」というワークショップを5日間で企画し、開催したことです。違う学校に通う学生たちが自由に交流できる場を作りたいと思い、放課後アリオスに来る高校生や東京から帰省中の大学生に声をかけてイベントを実現しました。参加者同士が仲良くなり、互いにパワーをもらっている姿がとても嬉しくて、大きな達成感が得られました。反省点も数多くありましたが、



1つの企画を自分たちが中心となって進め、無事に終わらせることができたということが自信につながっています。

そして、研修でお世話になった社員の方々はもちろん、アーティストやデザイナー、自分と同世代の学生たちなど、そこで出会った「人」は私にとってなによりの刺激になり、「自分も負けないように頑張らなくては」と感じました。今後は「楽しいことをやれば人は集まる。人を動かすのは共感である」という支配人の言葉を忘れずに、より多くのことに挑戦し、そこで出会う人とのつながりを大切に築いていきたいと思っています。

社員に根付く「安全」の精神

機械・電気システム工学専攻1年 岡本 達也

私は今回インターンシップで、埼玉県久喜市にある日本信号株式会社久喜事業所を訪れました。日本信号株式会社では鉄道用信号、運行管理システム、改札機、道路用信号等の交通インフラ事業を行っています。私は鉄道用信号やCTC（列車集中制御装置）などの設計を行うシステム設計部に配属されました。

私が行った作業は、CTCの仕様書の作成、新幹線の駅制御装置に関するデータ整理、鉄道用信号の分類などでした。研修を終えた後は与えられたテーマで発表会を行いました。ほとんどの仕事はパソコンを使う作業でしたが、実際の駅制御装置の試験風景の見学などもありました。パネルのランプが点灯するだけなので見た目は地味ですが、これで安全に列車が運転されているのだと思うと重要な装置なのだと感じました。

研修中、似たような書類で一部仕様が異なる部分があり、何故統一しないのか聞いてみました。答えは、「その仕様でそれぞれ安全を確保しているためすぐには仕様を変えられない」というものでした。この他にも安全を



日本信号株式会社
久喜事業所
THE NIPPON SIGNAL CO., LTD.

第一に考えている場面が多くみられました。その安全第一についての考え方が、ときおりぶつかることもあるようですが、日々努力し一歩ずつ改善を進めているそうです。これは社員のひとりひとりが安全についての精神をしっかりと身につけているからだと感じました。

今回のインターンシップを通して企業の理念や考え方がいかに重要か理解できました。他にもインターンシップの中で得たことはたくさんあり、どれも有益です。今後この経験を就職活動や社会に出てから活かそうと思います。

インターンシップを終えて

物質・環境システム工学専攻1年 大塩 智史

私は小名浜石油株式会社で2週間実習を行ってきました。小名浜石油株式会社では仕事別に8つのグループに分けられていました。そのなかでも私は製品出荷課、品質管理課で研修を行いました。研修内容は製品出荷課ではローリー車への原油運搬補助、原油運搬者への安全教室の見学などを行い、品質管理課ではタンク中の原油の成分分析などを行いました。研修が始まるまでは自分の知識レベルで円滑に研修を行うことができるのかとか迷惑をかけないで研修できるのかという不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、会社の方はとても親切な方ばかりだったので、良い緊張感の中で研修に取り組むことができました。



実際に研修を行って一番印象に残ったことは仕事を行っているときの真剣な眼差しと温かい職場環境でした。昼休みまで会社の同僚の方々や私たちと楽しく会話していたのが、仕事が始まった瞬間「どうすれば良い製品をお客様にお届けできるか」ということを第一に考え、一つ一つの仕事に対して正面から取り組んでいました。そして、同じ課はもちろん、他の課の方々とも行事を通して親睦を深めているのが話を聞いてわかりました。

今まで体験したことのないことをやらせて頂いたことはもちろん、自分たちが普段学校で勉強していることが会社でどのように使われているかを知ることも出来ました。自分たちが勉強している内容が実際に使われている場面を知る機会はなかなかありません。このことは今後の学校生活を送るにあたっての貴重な体験になったと思います。

この2週間で経験したこと、学んだことをこれからの勉強や生活に活かし、今まで以上に頑張っていきたいと思っています。

最後になりましたが、お忙しい中、研修の指導のために時間を割いて下さった小名浜石油株式会社のみなさん、本当にありがとうございました。

インターンシップを終えて ビジネスコミュニケーション学専攻1年 菅野 晃司

私はいわき市好間工業団地にあるアルパイン株式会社の情報システム部で2週間のインターンシップを行いました。アルパインはカーオーディオやカーナビなどの車載音響機器、情報通信機器の開発・製造・販売を行っており、世界中の人々に快適なカーライフを提供しています。このようなグローバルな販売・生産・開発体制をITでサポートするというのが情報システム部の役割でした。グローバルなITインフラや使いやすい情報システムを構築し、全アルパイングループのネットワークを統



括するという非常に大規模な事業に驚きを感じました。その中で私はPCの管理業務や、新システムの体験テスト、外国のユーザーさんに対する資料の翻訳作業などを行いました。これらの業務を通して、漠然としていた「IT」というもののイメージを明確にすることができ、またその重要性も改めて実感することができました。今回インターンシップを通して最も大切だと感じたのは、「常に相手の立場になって行動をする大切さ」です。情報システム部で行われている業務はもちろんですが、今回私が体験した業務にも全てお客様やユーザーなど、常に相手関係しており、そこには「相手のために」ということが念頭に置かれていました。英語の翻訳作業でも、学校では自分ができるように訳せばそれでOKですが、企業ではその資料を読む人がどんな人か、相手のことを深く考えたらうで、それに適した訳し方をしなければなりません。

社会に出たらより相手のことを考えて行動しなければいけないということを実感させられた2週間でした。今回学んだことや感じたことを、今後の自分の人生の活かしていきたいと思います。

インターンシップの実施にご協力を頂きました。御礼申し上げます。

曙ブレーキ工業(株)、(株)IH1、会津オリンパス(株)、あかい菜園(株)、旭化成(株)、アステラスファーマテック(株)、あすか製薬(株)、(株)東コンサルタント、アルパイン(株)、アルパイン情報システム(株)、アルプス電気(株)、(株)アルビオン、泉電設(株)、(株)いわき市民コミュニティ放送、(株)うすい百貨店、(有)ABCいわき、(株)NTT東日本ー福島、(株)FSK、大阪ガス(株)、小名浜石油(株)、小名浜製錬(株)、小名浜海陸運送(株)、花王(株)、カゴメ(株)、(株)加地和組、北関東空調工業(株)、キャノンアナパ(株)、キャノン(株)、キュービー(株)、京セラ(株)、クレハ建設(株)、(株)クレハ、(株)クレハ環境、(株)クレオ、(株)東微生物研究所、COM電子開発(株)、堺化学工業(株)、三進金属工業(株)、JFEスチール(株)、JXエンジニアリング(株)、(株)jig.jp、(株)資生堂、(有)品川通信計装サービス、常磐開発(株)、常磐共同火力(株)、新常磐交通(株)、新日本製鐵(株)、ゼビオ(株)、(株)仙台放送エンタープライズ、第一三共プロファーマ(株)、(株)平中央自動車学校、(株)タビックスジャパン、(株)タンガロイ、地質基礎工業(株)、(株)つばさエンタテインメント、(株)ツムラ、鶴見鋼管(株)、(株)テレビユー福島、電源開発(株)、東新工業(株)、(株)東京ベイホテルズ、東洋システム(株)、西松建設(株)、日栄地質測量設計(株)、ニチハ(株)、日新電機(株)、日本化成(株)、(株)日本色材工業研究所、日本信号(株)、ネスレ日本(株)、(株)ネクスト情報はましん、長谷川香料(株)、(株)ハニーズ、(株)東日本計算センター、東日本高速道路(株)、東日本測量(株)、東日本旅客鉄道(株)、日立化成工業(株)、(株)日の出製作所、福島商工信用組合、福浜大一建設(株)、(株)フジキン、富士通(株)、(株)富士通エフサス、富士フィルムファインケミカルズ(株)、フタバコンサルタント(株)、古河電池(株)、堀江工業(株)、三菱地所コミュニティ(株)、三菱電機ビルテクノサービス(株)、(株)ムラコシ精工、リゾートトラスト(株)、茨城大、いわき明星大、京都大、同志社大、東北大、徳島大、豊橋技術科学大、長岡技術科学大、北海道大、山形大、山梨大、横浜国立大、富山高専、リールA技術短期大学(IUT A Lille)、いわき市、北茨城市、いわき市国際交流協会、福島県、国土交通省、文部科学省、(特)創成国際特許事務所、オムロン・高専機構共同教育プロジェクト、原子力研究開発機構、(公)青年海外協力協会

平成24年度 一日体験入学を終えて

入学対策専門部会長 松本 匡 以

平成24年度の一日体験入学は、8月4日(土)、5日(日)の一日半で実施されました。例年通り、午前はいわき地区を午後はいわき地区以外を対象に行いました。

ここ5年間の参加者は、平成20年度687人、21年度793人、22年度841人、23年度870人、今年度は780人と若干少なくなりました。これは、中体連の東北大会等の各種行事が重なったためと思われるが、絶対数としては大勢の参加者であり、今年もうれしい悲鳴をあげながらの一日体験入学となりました。

今年の各学科のデモ実験のテーマと内容等を紹介します。

<物質工学科>



「化学への招待ー楽しい化学の実験室ー」というテーマ名で、①無電解めっきの実験 ②生物から欲しい物質を取り出そうのデモ実験等が行われました。



<機械工学科>



「夢をカタチにする機械」というテーマ名で、①学科紹介 ②歯ブラシロボットとペーパークラフト ③市民に役立つモノづくりのデモ実験等が行われました。



<建設環境工学科>



「災害に強いまちを造る」というテーマ名で、①安心!安全!水道水 ②測量を体験してみようのデモ実験等が行われました。



<電気工学科>



「ふれてみよう電気・電子・情報」というテーマ名で、①モノづくり教育にふれてみよう ②高専プロコンへの挑戦 ③冷やして浮かそう超電導。冷やさなくても浮かぶぞ...?のデモ実験等が行われました。



<コミュニケーション情報学科>



「Reach Your Dreams!」というテーマ名で、①学科紹介②デジタルワールドへようこそ!のデモ実験等が行われました。



<交流コーナー>

休憩時間等を利用して、①学校紹介 ②入試相談 ③ミニ研究紹介 ④知能ロボコン出場機実演 ⑤休憩コーナーを設け、実演の見学や相談ができるようにしました。

昨年に引き続き、学校紹介のパネル前で各クラブ・サークルの代表学生による課外活動の説明も行われました。

東北地区高専体育大会の結果(平成24年度)

Table of sports results for the Tohoku Region. Includes categories like 陸上競技 (陸上競技), バドミントン, テニス, ソフトテニス, 卓球, and 水泳. Lists participants and their respective ranks.

Table of sports results for the Tohoku Region. Includes categories like 柔道, 硬式野球, サッカー, 水泳 (男子), and バレーボール. Lists participants and their respective ranks.

Table of sports results for the Tohoku Region. Includes categories like ソフトテニス (男子), ソフトテニス (女子), 柔道 (男子), 柔道 (女子), 硬式野球, サッカー, 水泳 (男子), and バレーボール. Lists participants and their respective ranks.

Table of sports results for the Tohoku Region. Includes categories like 水泳 (女子), 陸上競技 (男子), 陸上競技 (女子), バレーボール (男子), ソフトテニス (男子), and ソフトテニス (女子). Lists participants and their respective ranks.

Table of sports results for the Tohoku Region. Includes categories like バドミントン (男子), バドミントン (女子), テニス (男子), テニス (女子), 卓球 (男子), 卓球 (女子), and 水泳. Lists participants and their respective ranks.

Table of sports results for the Tohoku Region. Includes categories like バドミントン (男子), バドミントン (女子), テニス (男子), テニス (女子), 卓球 (男子), 卓球 (女子), and 水泳. Lists participants and their respective ranks.

高等学校体育大会等の結果

Table of sports results for the Tohoku Region. Includes categories like 陸上競技 (男子), 陸上競技 (女子), バレーボール (男子), ソフトテニス (男子), and ソフトテニス (女子). Lists participants and their respective ranks.

Table of sports results for the Tohoku Region. Includes categories like テニス (男子), テニス (女子), 卓球 (男子), 卓球 (女子), and 水泳. Lists participants and their respective ranks.

Table of sports results for the Tohoku Region. Includes categories like テニス (男子), テニス (女子), 卓球 (男子), 卓球 (女子), and 水泳. Lists participants and their respective ranks.

■剣道 (男子)
団体戦 2 回戦敗退
1 回戦 高専 2-1 福島南高校
2 回戦 高専 0-5 福島高校

■水泳 (男子)
総合 第 7 位
50m 自由形 平木 義久 (3M) 予選敗退
" 齊藤 大明 (31) 予選敗退
" 山下 秀 (2M) 予選敗退
100m 自由形 猪狩 聖人 (3E) 予選敗退
" 齊藤 大明 (31) 予選敗退
" 山下 秀 (2M) 予選敗退
200m 自由形 山下 賢也 (3M) 予選敗退
" 猪狩 聖人 (3E) 予選敗退
" 吉田 光義 (1M) 予選敗退
400m 自由形 山下 賢也 (3M) 予選敗退
" 松田 裕樹 (2E) 予選敗退
" 吉田 光義 (1M) 予選敗退
1500m 自由形 松田 裕樹 (2E) 予選敗退
100m 背泳ぎ 生方 歩高 (1M) 第 4 位 (東北大会出場)
" 横山 佳輝 (3M) 予選敗退
" 菅野裕次郎 (2E) 棄権
200m 背泳ぎ 生方 歩高 (1M) 第 2 位 (東北大会出場)
" 関根 健恭 (3M) 予選敗退
" 横山 佳輝 (3M) 予選敗退
100m 平泳ぎ 大友 一生 (2M) 第 2 位 (東北大会出場)
" 圓子 智弘 (3E) 予選敗退
" 増田伊扶己 (3K) 予選敗退
200m 平泳ぎ 大友 一生 (2M) 第 3 位 (東北大会出場)
" 圓子 智弘 (3E) 予選敗退
" 増田伊扶己 (3K) 予選敗退
100m バタフライ 木下 小鉄 (2M) 予選敗退
" 四倉 悠介 (1K) 予選敗退
200m バタフライ 木下 小鉄 (2M) 失格
200m 個人メドレー 四倉 悠介 (1K) 予選敗退
" 森下 英樹 (2E) 予選敗退
400m リレー 予選敗退
800m リレー 予選敗退
400m メドレーリレー 予選敗退 (東北大会出場)

■水泳 (女子)
50m 自由形 若松 真純 (31) 予選敗退
100m 自由形 若松 真純 (31) 予選敗退
100m 背泳ぎ 小野 晶子 (2C) 第 6 位 (東北大会出場)
100m 平泳ぎ 佐々木夏子 (2C) 予選敗退
200m 平泳ぎ 佐々木夏子 (2C) 失格
100m バタフライ 大橋 星花 (11) 予選敗退
200m バタフライ 大橋 星花 (11) 予選敗退
200m 個人メドレー 小野 晶子 (2C) 第 3 位 (東北大会出場)
400m リレー 予選敗退
400m メドレーリレー 予選敗退

■空手道 (男子)
個人形 矢内 優 (2E) 1 回戦敗退
" 岡田 真樹 (2E) 1 回戦敗退

■バドミントン (男子)
ダブルス 高萩 秀幸 (3E) 久野 裕哉 (3E) 2 回戦敗退

■バドミントン (女子)
団体戦 1 回戦敗退
シングルス 薄葉なつみ (2C) 3 回戦敗退
ダブルス 瀧 彩文 (31) 薄葉なつみ (2C) 3 回戦敗退

◎第65回東北学生陸上競技対校選手権大会
男子100m 相沢 賢吾 (51) 準決勝敗退
" 吉田 将大 (4K) 予選敗退
男子200m 相沢 賢吾 (51) 予選敗退
男子800m 遠藤 達也 (5C) 予選敗退

" 遠藤 直弥 (4E) 予選敗退
男子1500m 遠藤 達也 (5C) 予選敗退
" 遠藤 直弥 (4E) 予選敗退
走幅跳 吉田 将大 (4K) 予選敗退

◎第8回福島県シングルスソフトテニス選手権大会
男子シングルス 大和田 嵩 (3K) ベスト16
" 佐藤 伸耶 (3E) ベスト32

◎ハイスchoolジャパンカップソフトテニス2012福島県代表選考大会
男子個人戦 大和田 嵩 (3K) ベスト8
" 佐藤 伸耶 (3E) ベスト8
" 金丸 允駿 (3E) ベスト8
" 佐野 友啓 (2K) ベスト8

◎第10回福島県高等学校春季ソフトテニス大会
男子団体戦 第1位
◎第29回福島県春季ジュニアダブルステニス選手権大会
男子ダブルス 高木 健志 (21) 松崎 夢夢 (3M) 1 回戦敗退
女子ダブルス 山田 瑛子 (3K) 坂本 萌子 (31) 1 回戦敗退

◎第91回全国高等学校サッカー選手権大会福島県大会 1 次大会
1 回戦 高専 5-0 安達東高校
2 回戦 高専 1-0 田村高校
3 回戦 高専 1-0 須賀川高校

◎第92回天皇杯全日本サッカー選手権福島県代表決定戦
1 回戦 高専 0-3 相馬 S C

◎第94回全国高等学校野球選手権福島大会
1 回戦 高専 3-10 郡山高校

◎第42回福島県空手道選手権大会
個人形 矢内 優 (2E) 1 回戦敗退
" 岡田 真樹 (2E) 1 回戦敗退
個人組手 矢内 優 (2E) 1 回戦敗退
" 岡田 真樹 (2E) 1 回戦敗退

◎第67回東北高等学校陸上競技大会
男子400mH 神部 光 (2K) 準決勝敗退
男子走高跳 宮原遼太郎 (3M) 予選敗退
女子円盤投 宮路 しほ (2C) 第 7 位

◎第66回東北高等学校卓球選手権大会
男子シングルス 安齋 正樹 (1K) 2 回戦敗退
男子ダブルス 中丸 智貴 (3E) 青木 勇斗 (3M) 2 回戦敗退
女子団体戦 ベスト8
女子シングルス 今野小百合 (3K) 2 回戦敗退
" 滑川 侑佳 (31) 2 回戦敗退
" 大浦 悠 (1K) 2 回戦敗退
女子ダブルス 滑川 侑佳 (31) 今野小百合 (3K) 1 回戦敗退

◎第60回東北高等学校水泳競技大会
男子100m背泳ぎ 生方 歩高 (1M) 予選敗退
男子200m背泳ぎ 生方 歩高 (1M) 予選敗退
男子100m平泳ぎ 大友 一生 (2M) 第 3 位 (全国大会出場)
男子200m平泳ぎ 大友 一生 (2M) 予選敗退
男子400mメドレーリレー 予選敗退 (圓子智弘 (3E)・生方歩高・大友一生・齊藤大明 (31))
女子100m背泳ぎ 小野 晶子 (2C) 予選敗退

女子200m個人メドレー 小野 晶子 (2C) 予選敗退

◎全国高等学校総合体育大会卓球競技大会
女子シングルス 滑川 侑佳 (31) 2 回戦敗退

◎全国高等学校総合体育大会水泳競技大会
男子100m平泳ぎ 大友 一生 (2M) 予選敗退

◎第65回福島県総合体育大会 県大会
■陸上競技 (男子)
400mH 神部 光 (2K) 第 4 位
走高跳 宮原遼太郎 (3M) 第 7 位
4×100m R 第 8 位 (相沢賢吾 (51)・吉田将大 (4K)・神部光・古和口廉 (1K))
4×400m R 第 3 位 (庄司陽 (3K)・久保田祐輝 (3K)・吉田将大・古和口廉 (1K))
少年男子 B 古和口 廉 (1K) 第 4 位

■陸上競技 (女子)
円盤投 宮路 しほ (2C) 第 2 位 (東北選手権出場)

■バレーボール (男子)
1 回戦 高専 1-2 福島工業高校

■ソフトテニス (男子)
個人戦 大和田 嵩 (3K) 佐藤 伸耶 (3E) 3 回戦敗退
" 佐藤 拓末 (3C) 安瀬 登軌 (2E) 2 回戦敗退
" 金丸 允駿 (3E) 佐野 友啓 (2K) 1 回戦敗退

■テニス (男子)
【男子 I 部】
シングルス 比嘉 和也 (3E) 3 回戦敗退
" 小島 悠人 (3C) 2 回戦敗退
ダブルス 小島 悠人 (3C) 比嘉 和也 (3E) 2 回戦敗退
" 柳沼 啓也 (3E) 佐藤 佑樹 (3M) 1 回戦敗退
" 荒川 雅俊 (3E) 大塚 尚志 (3E) 1 回戦敗退
" 渡辺 瞬 (2E) 渡邊 健汰 (2C) 1 回戦敗退

【男子 II 部】
シングルス 市川 希 (1K) 第 7 位 宮嶋 豪 (1C) 1 回戦敗退
ダブルス 市川 希 (1K) 菊池 洋輝 (1M) 第 3 位

【女子 II 部】
シングルス 薄井小百合 (1C) 1 回戦敗退
ダブルス 嘉齊 滂 (11) 薄井小百合 (1C) 1 回戦敗退
" 草野 有紀 (1C) 松田 歩華 (1C) 1 回戦敗退

■卓球 (男子)
少年団体 第 3 位

■卓球 (女子)
シングルス 滑川 侑佳 (31) ベスト 8

■水泳 (男子)
50m 自由形 山口 修平 (5K) 予選敗退
吉田 周平 (5M) 予選敗退
矢羽々寛和 (5M) 予選敗退
北澤 春樹 (5M) 予選敗退
佐藤 祐樹 (4M) 予選敗退
紺野 貴裕 (4C) 予選敗退
平木 義久 (3M) 予選敗退
" 山下 賢也 (3M) 予選敗退
" 横山 佳輝 (3M) 予選敗退
" 齊藤 大明 (31) 予選敗退
" 木下 小鉄 (2M) 予選敗退

" 菅野裕次郎 (2E) 予選敗退
森下 英樹 (2E) 予選敗退
吉田 周平 (5M) 予選敗退
横山 佳輝 (3M) 予選敗退
圓子 智弘 (3E) 予選敗退
齊藤 大明 (31) 予選敗退
木下 小鉄 (2M) 予選敗退
森下 英樹 (2E) 予選敗退
山下 賢也 (3M) 予選敗退
松田 裕樹 (2E) 予選敗退
吉田 光義 (1M) 予選敗退
北澤 春樹 (5M) 予選敗退
松田 裕樹 (2E) 予選敗退
紺野 貴裕 (4C) 予選敗退
50m 背泳ぎ 生方 歩高 (1M) 第 6 位
100m 背泳ぎ 関根 健恭 (3M) 予選敗退
200m 背泳ぎ 生方 歩高 (1M) 第 3 位
" 関根 健恭 (3M) 予選敗退
50m 平泳ぎ 増田伊扶己 (3K) 予選敗退
100m 平泳ぎ 大友 一生 (2M) 第 1 位
" 圓子 智弘 (3E) 予選敗退
" 増田伊扶己 (3K) 予選敗退
200m 平泳ぎ 大友 一生 (2M) 第 3 位
50m バタフライ 平木 義久 (3M) 予選敗退
" 山下 秀 (2M) 予選敗退
100m バタフライ 山下 秀 (2M) 予選敗退
" 吉田 光義 (1M) 予選敗退
200m 個人メドレー 四倉 悠介 (1K) 予選敗退
400m リレー 第 8 位
400m メドレーリレー 第 8 位

■水泳 (女子)
50m 自由形 鈴木 姫花 (41) 予選敗退
" 若松 真純 (31) 予選敗退
100m 自由形 若松 真純 (31) 予選敗退
小野 晶子 (2C) 予選敗退
猪狩あゆみ (5M) 予選敗退
100m 背泳ぎ 小野 晶子 (2C) 予選敗退
50m 平泳ぎ 佐々木夏子 (2C) 予選敗退
100m 平泳ぎ 佐々木夏子 (2C) 予選敗退
50m バタフライ 大橋 星花 (11) 予選敗退
100m バタフライ 大橋 星花 (11) 予選敗退
200m 個人メドレー 小野 晶子 (2C) 第 2 位

■写真部
・第2回フラガールズ甲子園撮影 実施
・東北高専体育大会福島大会撮影 実施
・ひたち国際大芸芸撮影 実施
・小川諏訪神社、松ヶ岡公園での桜の撮影 実施

■吹奏楽部
・第50回福島県吹奏楽コンクール 金賞 (東北大会出場)
・全日本吹奏楽コンクール第55回東北大会 銅賞

■将棋部
第19回全国高等専門学校将棋大会
団体戦 1 回戦敗退
個人戦 阿部 直樹 (5E) 予選敗退
" 加藤 将 (2M) 予選敗退
" 櫻井 健太 (2M) 予選敗退
" 比佐 健人 (2M) 予選敗退
" 馬目翔太郎 (2M) 予選敗退

■茶華道部
・第37回関東東信越地区高専文化発表会 参加
・第32回いわき学校茶道連盟合同発表会 参加

■演劇部
・いわき地区高校演劇発表会 参加
・第37回関東東信越地区高専文化発表会 参加

400m リレー 第11位
400m メドレーリレー 第11位

■バドミントン (男子)
シングルス 青木健一郎 (2K) 2 回戦敗退
" 貝沼秀一郎 (2E) 1 回戦敗退

■バドミントン (女子)
シングルス 薄葉なつみ (2C) 3 回戦敗退
ダブルス 瀧 彩文 (31) 薄葉なつみ (2C) 1 回戦敗退

◎平成24年度全日本卓球選手権大会 福島県大会
ジュニア男子シングルス 矢内 智大 (1M) 第 2 位 (全国大会出場)
" 木田 貴文 (2C) ベスト16
" 安齋 正樹 (1K) ベスト16
" 鈴木 孝幸 (2E) 4 回戦敗退
" 佐藤 瑞樹 (2C) 4 回戦敗退
" 金成 憲吾 (2E) 2 回戦敗退

ジュニア女子シングルス 大浦 悠 (1K) ベスト16
齋藤佳菜子 (21) 4 回戦敗退
混合ダブルス 桑嶋 隆 (5M) 齋藤佳菜子 (21) 4 回戦敗退
" 青木 勇斗 (3M) 今井 瑠奈 (磐城第一高) 4 回戦敗退
" 富塚 俊太 (3K) 今野小百合 (3K) 3 回戦敗退
" 木田 貴文 (2C) 大浦 悠 (1K) 3 回戦敗退
" 安齋 正樹 (1K) 滑川 侑佳 (31) 3 回戦敗退
" 中丸 智貴 (3E) 丸山 里奈 (磐城第一高) 1 回戦敗退
男子ダブルス 中丸 智貴 (3E) 第 3 位

■山岳部
・飯豊山登山 実施
・三本槍岳登山 実施
・磐取山、大将旗山登山 実施
・東吾妻山、一切経山登山 実施
・安達太良山登山 実施
・二岐山登山 実施
・蓬田岳登山 実施
・鳥屋山登山 実施

■サイクリング部
・長野県松本市乗鞍岳夏季ツーリング 実施

■ラグビー部
・第5回東北地区高専ラグビー講習会 参加
・福島県 7 人制ラグビー大会 参加

■天文部
・JAXA みちびきアート参加インタビュー (4/19) 実施
・金環日食観測 (5/21) 実施
・金星日面通過観測 (曇 データ無し) (6/6) 実施
・夜空の明るさ調査説明会 (7/14, 15) 参加
・木星食 (雨 データ無し) (7/15) 実施
・夜空の明るさ調査 連続観測開始 (9/1~)

■エネルギー研究会
ワールド・グリーン・チャレンジ
ソーラーカー & F C カーラー
ソーラーカー部門チャレンジクラス 第 3 位

総合 第11位
■ソフトウェア研究部
・パソコン甲子園2012プログラミング部門 参加
・第59回NHK杯全国高等学校放送コンテスト福島県大会 参加
■分子生物学愛好会
・第24回知能ロボットコンテスト2012 チーム1: 堀越くまさん nona (岩崎莉歩 (2C)・菅原佳奈 (2C) 西郷知樹 (2C))
" チャレンジコース 1 次予選敗退
チーム2: 堀越くまさん Fundamental (小林翠 (3C)・笠原渚子 (41))
" チャレンジコース 1 次予選敗退
チーム3: 7 人の堀越くまさん (小林翠・笠原渚子・岩崎莉歩・菅原佳奈・西郷知樹)
" テクニカルコース 2 次予選敗退

■弓道愛好会
・第13回いわき明星大学賞学校弓道大会 参加
・第65回福島県総合体育大会弓道競技 いわき地区予選 参加
・第58回福島県高等学校体育大会弓道競技 梅本 翔 (3C) 準決勝進出
" 小野田崇司 (3C) 準決勝進出

■ストリートダンス愛好会
第37回関東東信越地区高専文化発表会 参加

Aufforderung zum Club

吹奏楽部顧問 廣瀬 大輔

皆さんは、入学式などの式典で演奏があったことを覚えていますか？あときの音を奏でていた団体が吹奏楽部です。あるいは放課後や週末に校内でラッパやフルートなどの楽器の音色が聞こえてきたこと、ありませんか？それも吹奏楽部のものです。

吹奏楽部員は放課後、週末に音楽練習場で、楽しみながらも真剣に研鑽を重ねています。本年度はフラワーコンサートやトップコンサートなど幾つかの舞台で演奏してきました。そして夏に開かれた全日本吹奏楽コンクールでは、3年ぶりの東北大会出場も果たしてきました。実は筆者は東北大会の舞台袖で演奏を聞いていたのですが、ここに載っている写真

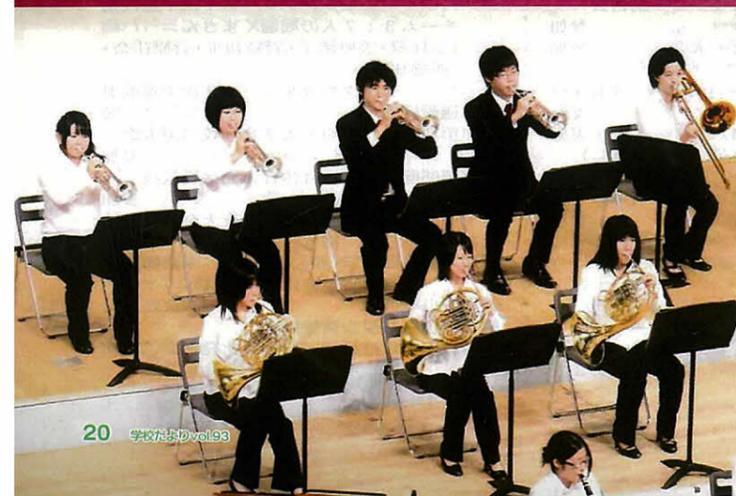
には写っていない緊張感を肌で感じました。スーツを着て、スポットライトを浴びて、観客の前に立つ部員たちは、普段教室や街で会う彼らとは、また違った顔をしています。

さて12月16日に部員たちは再び舞台に立ちます。福島高専吹奏楽部単独のコンサート。定期演奏会です。いわき芸術文化交流館アリオス 大ホールにて、午後1時30分開場、午後2時開演です。

普段と違ったクラスメートの姿を見に来ませんか？何より紙面では表現できない吹奏楽部の音楽を味わいに来ませんか？興味を持っていただけの方がおりましたら、お近くの部員に声をかけてみてください。



吹奏楽部



水泳部



福島高専水泳部 最近の5年間

水泳部顧問 松本 匡以

平成20年以降の本校水泳部の概況をお知らせいたします。

指導者

指導教員：松本匡以（機械工学科）、青木寿博（物質工学科）、原田正光（建設環境工学科） コーチ：金澤弘孝
金澤コーチは、今年で20年（！）になります。

部員数（平成24年度）（ ）はマネージャー内数

男子24（1）人・女子9（3）人
平成20年度から同じような状況です。

主な活動（平成24年度）

4月下旬：プール掃除・プール開き、5月上旬：練習開始、6月上旬：高体連いわき地区大会、下旬：高体連県大会、7月上旬：高専東北大会、中旬：高体連東北大会、下旬：県総体、8月上旬：いわき市民スポーツ大会、中旬：インターハイ、下旬：高専全国大会、9月上旬：高体連新人戦県大会、10月下旬：高体連新人戦東北大会

東北地区高専体育大会の記録

平成20年度：男子1位・女子2位、21年度：男子1位・女子3位、22年度：男子1位・女子2位、23年度：男子1位・女子2位、24年度：男子1位・女子1位
男子は5連覇中です。女子は、創部以来念願の優勝杯を手にすることができました。

全国高専体育大会の記録

平成20年度：1位、21年度：2位、22年度：2位、23年度：4位、24年度：4位

ここ数年間は、本校を含めて神戸市立・松江・鈴鹿の4校の争いとなっています。

高専体育大会外の顕著な活躍

- ・インターハイ出場
佐藤祐樹（機械工学科4年）：男子400m自由形（平成23年度）、1500m自由形（21～23年度）
大友一生（機械工学科2年）：男子100m平泳ぎ（24年度）
- ・国体出場
大友一生：少年男子B 100m平泳ぎ（23年度）

平成23年度は震災でプールが壊れてまともな練習ができず、24年度は空気中や水中の放射線を気にしながらの練習となりましたが、何とかそれなりの結果を残せたように思えます。今後も水泳部の活動を通して、部員の「人間力」の向上にも努めたいと考えています。

新任教職員紹介



一般教科 数学 廣瀬 大輔 (ひろせ だいすけ)

突然ですが、想像力が大切だなと思っています。自分とは全く考え方の違う人、異なった常識、身近にはない現象。そんなものに触れたとき、役に立つのが想像力です。「あの人の言っていること僕にはさっぱり理解できないけれど、あの人の人にとっては重要なことなのかもしれない」と人に優しくなれるのが想像力です。

想像力を鍛えるには、理解できない(今の自分には)役に立たないことに触れることが肝心です。

さて、数学担当として赴任して参りました廣瀬です。伝えなかったこと、想像していただければ幸いです。よろしくお願いします。



一般教科 数学 飯田 毅士 (いいた たけし)

今年の3月に山形大学大学院を修了し、博士(理学)の学位を取得しました。そして、今年4月より一般教科(数学)教員として着任いたしました。今までに実解析学(調和解析学)を中心に研究を行ってまいりました。これらの研究は微分方程式と深く関連しております。社会人として働いたことはなく、いわゆる、新卒での採用となっております。まだ、未熟者で、わからないことも多々あると思いますが、幸せな学生生活を送れるように少しでもお手伝いできればと思います。研究も教育も頑張りたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。



一般教科 数学 澤田 宰一 (さわだ ただかつ)

10月から一般教科(数学)の教員として着任しました澤田宰一と申します。出身は福岡で、9月までは仙台にいました。着任してまだ日は浅いですが、授業では皆さんの熱意に圧倒される日々を過ごしています。

私は、何かを学んだり、身に付けたりする際、一番大切なのは、受け身にならず、自分から積極的に動くことだと考えています。数学に限らず、皆さんが自主的に学び、色々なことにチャレンジできるよう、全力でサポートを行っていきたくと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



一般教科 英語 市川 誠 (いちかわ まこと)

一般教科(英語)の教員の市川誠です。富山県生まれ、高校卒業までの18年間を富山で、今年の3月まで18年間を東京で過ごしてきました。縁があり、今年の4月に福島高専に赴任しました。半年間いわきで生活をして一番気に入ったことは、気候の良さです。夏はそれほど暑くなく、冬は雪がほとんど降らないと聞きました。また、学校の近くに湯本などの温泉があることも気に入っています。専門として研究しているのは英語の歴史です。ふだんは西暦1000年から1500年に書かれた古い英語を読んでいます。みなさんよろしくお願いいたします。



一般教科 英語 加藤 明子 (かとう あきこ)

一般教科の英語教員として働くことになりました加藤明子です。オーストラリアやマレーシアで研究をしたり教員として働いたりした後、今年、10年ぶりに日本に帰ってきました。福島高専に初めて来たときに、学生が「こんにちは」と元気に挨拶をしてくれたことが印象に残っています。みなさん、ぜひ、研究室に遊びに来てください(低学年棟2階です)。効果的な英語の勉強法など、一緒に考えましょう。勉強以外のお話も大歓迎です♪いわきに引越してまだ2週間、いわきの情報いろいろ教えてください。



一般教科 物理 新井 真人 (あらい まさと)

2012年4月より物理の教員として当高専に赴任を致しました。博士を取得してから、海外の大学や研究所を博士研究員として転々として、数えてみれば10年近くも日本を離れておりました。4月からは、これまでとは全く異なる環境に身を置いて、最初は慣れないことも多く戸惑いましたが、最近少しか余裕が出てきた気がします。今後は、海外での多様な経験を活かし、学生の皆さんの将来の役に立つような話を色々な場面で伝えることができたらと考えていますので、よろしくお願い致します。



建設環境工学科 林 久資 (はやし ひさし)

林 久資と申します。育児休暇中の田村先生のピンチヒッターとして、本年4月より建設環境工学科に着任いたしました。主に、測量関係の講義や実習、情報処理を担当しております。

私の専門分野は山岳トンネルで、山岳トンネルを掘削したときの力学的影響に関する研究を行い、本年3月に博士(工学)の学位を取得しました。

まだ、着任して数ヶ月であるため、不慣れな点も多いかと思いますが、福島高専の学生が、充実した高専生活を送れるように努力していきたくと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。



コミュニケーション情報学科 横井 久美子 (よこい くみこ)

これまで国立・私立4つの大学での勤務経験があり、公立大学の先生達との交流もありました。さて、今年度から、それらいずれとも異なる高専での勤務です。カリキュラムや制度の違いはあっても、私はやはり基本は同じだと思います。ある調査では、中学3年の時の学業状況がその後の人生観などの基礎となるという考察もありました。その後進んだ先が高専・大学でも、高専とその専攻科であっても、学生一人一人が自分でしっかりとすることの大切さは変わりません。学生が、受け身ではなく、主体的に「考えて」取り組むことを応援します。

新任教職員紹介



コミュニケーション情報学科 田 淵 義 英 (たぶち よしひで)

今年、コミュニケーション情報学科に着任した、田淵義英です。専門は社会哲学、とりわけ現代社会論、現代文化論について研究しています。研究室はコミ棟5階にありますので、気軽に立ち寄って下さい。趣味は、登山やロッククライミングをしています。いわきには良いクライミングジムがありますので、ジムで見かけたときにも気軽に声をかけていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



コミュニケーション情報学科 杉 山 武 史 (すぎやま たけし)

10月よりコミュニケーション情報学科に着任した、杉山武史と申します。学科において数学系、管理工学系の科目を担当しています。9月末までは筑波大学大学院ビジネス科学研究科というところで、社会人大学院生に向け講義を行ってまいりました。“社会人学生”と“高専学生”の違いに戸惑ってはおりますが、一方でその分だけ学べる事も多いかと考え、やりがいを感じております。また、これまでの経験を活かし福島高専における教育をはじめとする様々な活動にて貢献していきたいと考えています、どうぞよろしくお願いいたします。



機械・電気システム工学専攻 准教授 徐 艶 濱 (じょ えんひん)

平成24年6月から特命教員として採用されました、専攻科機械・電気システム工学の徐艶濱と申します。「地域復興人材育成コース」の電気流通工学分野を担当しております。また、本学校である「スマートグリッド実規模実験装置」プロジェクトに携わっております。再生可能エネルギーである太陽光発電、風力発電及びガスエンジン、蓄電池などを利用して、災害時に自立運転により電力確保について研究しております。さらに、こちらの設備を利用して、様々な実験にも行う予定であります。どうぞよろしくお願いいたします。



機械・電気システム工学専攻 實 川 資 朗 (じつかわ しろう)

機械・電気システム工学専攻(復興人材育成)に10月1日に着任しました。日本原子力研究開発機構の出身ですので、所謂「原子力村」のメンバーだったこととなります。不明を恥じますが、第一原発で、あれ程の規模の事故が生じるとは予想の外でした。ところで、主な研究領域は、核融合等の新型炉炉心材料の中性子照射損傷です。この知見は軽水炉安全性にも有用で、その領域の活性化も試みましたが、様々な理由から国内では未だです。これも含め3.11以前でも安全性への取組みを増やせたはずと悔みます。本校を通じ、苛酷事故からの復旧に寄与できればと考えます。



物質・環境システム工学専攻 特命教授 霜 田 宜 久 (しもだ よしひさ)

6月16日に物質・環境システム工学専攻の特命教授として赴任しました霜田宜久(よしひさ)です。これまで東京都で主としてまちづくりの仕事に携わってきました。その中でまちづくりにとって重要な防災、減災といった視点からも様々な課題の対応に努めてきました。それとともにこの40年間、多くの災害現場も見てきました。こうした経験をこれからの講義や研究に生かしていきたいと考えております。また、地元いわき市の震災復興の役に立てたらと考えております。



物質・環境システム工学専攻 特命教授 佐 藤 正 知 (さとう せいち)

9月までは、北海道大学大学院工学研究院のエネルギー環境システム部門に所属、原子力環境材料学研究室を担当し、主に放射性廃棄物処分の研究に従事しておりました。ガラス固化体の放射性核種閉じ込め性能、膨大な無機イオン交換体である深地中の花崗岩等による放射性核種の吸着特性、地層処分に用いられる不透水性の粘土(ベントナイト)中での核種移動速度、セメント系材料の長期にわたる化学的耐久性、に関する評価研究です。

これまでの経験を生かし心機一転、福島高専での仕事を通じて、社会貢献できればと考えています。



総務課長 石 川 白 (いしかわ きよし)

4月1日付けで明石高専から赴任いたしました。

福島高専の中で一番好きな風景は正門から坂を上りながら観る大木のケヤキ・青年の像そして校舎、いいですねー。そんな中で仕事ができることに感謝をしています。

「がんばっぺ!!いわき!」のスローガン通り、皆様方が地震・津波・放射能・風評の四重苦の中、50周年記念事業あるいは地域復興のためのセンター的機能整備事業等に一生懸命に取り組んでいる姿を見るにつけ、少しでも福島高専のお役に立つようがんばる所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。



学生課長 高 橋 喜 一 (たかはし きいち)

このたび、学生課長に着任をしました高橋喜一です。福島大学での単身赴任の生活から3年ぶりに、ふるさと「いわき」に戻りました。どうぞよろしくお願いいたします。着任してからの時間の流れの速さを実感する毎日ですが、震災後の福島高専の新しい取組や多様化する業務への対応などが求められるなかで、これまでの経験や人との出会いを通して学んだことを「糧」に、創造力と柔軟性を意識しながら、新鮮な気持ちで、日々の仕事に取り組み、課員の皆さんと力を合わせながら、学生にとって身近な学生課、よりよい学生支援を目指していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

新任教職員紹介



総務課 施設管理係長 川崎 修平 (かわさき しゅうへい)

10月1日付けで、仙台高等専門学校施設課より赴任致しました。仙台高専では東日本25高専の施設整備に係る支援を担当しており、福島高専の専攻科棟の新営工事、機械工学科棟・物質工学科棟の改修工事に携わらせていただきましたので、今回このような縁で福島高専に赴任することを嬉しく思っています。

不慣れなこともあり、ご面倒をお掛けすることもあると思いますが、初心を忘れることなく、福島高専の力になれるよう努めますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。



総務課 人事係 吉田 隆敬 (よしだ たかゆき)

2年前の春に国立高専機構本部へ異動となり今年の4月に再び福島高専へ赴任いたしました。本部は全国高専の業務管理を担う部署ですが学校ではないため学生が身近におりません。今回の赴任では福島高専の変わらない雰囲気を感じるとともに若い学生のいる学校ならではの環境に改めて新鮮なものを感じました。校内で学生さんと挨拶を交わす何気ないことでも学校が学生を育てていることを実感させてくれ、その運営に携わる自分の仕事の意義を再確認できる思いです。これからも福島高専のために頑張りますのでよろしくお願いいたします。



総務課 総務企画係 箱崎 ほなみ (はこざき ほなみ)

2月に採用されました総務課の箱崎ほなみです。着任してから、あっという間に半年以上経ちましたが、周りの方々に温かく支えていただき、とても感謝しています。生まれ育った地元「いわき」で働けてすごく嬉しいです。学生とは、なかなか触れ合う機会がありませんが、先生方や学生の方々が快適な学校生活ができるよう、バックアップしていきたいと思えます。

社会人としてまだまだ不慣れなことが多くご迷惑おかけすると思いますが、日々精進するよう頑張りますので、よろしくお願いいたします。



学生課 教務係 大内 健介 (おおうち けんすけ)

2月1日付けで茨城大学工学部より本校に赴任いたしました。9年ぶりに出身地であるいわきへ戻ることができ、大変嬉しく思っております。茨城大学でも教務や入試などの学生と関わりのある業務を担当して参りましたが、大学生とは違う高専生の若々しいエネルギーを新鮮に感じながら働いております。まだまだ至らない点も多く、学生や先生方にはご迷惑をお掛けするかと思いますが、伝統ある福島高専のさらなる発展に少しでもお役に立てるよう努めて参りますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



学生課 看護師 面川 恵美 (おもかわ えみ)

今年の4月に保健室の看護師として採用されました面川恵美です。以前は病院の看護師として勤務しており、学校の看護師という慣れない環境で落ち込む事も多いですが、学生さんがどこで会っても元気に声をかけてくれ、大変励まされています。高専の学生さんは素直で思いやりのある学生さんばかりだと感じました。

学生の皆さんが、元気に楽しく有意義な学生生活を送れるように、学生さんを支えていけるように精一杯努力していきたいと思えます。至らない部分もあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。



学生課 学生支援係 八木 貴史 (やぎ たかし)

本年度4月から着任いたしました、学生課学生支援係の八木貴史と申します。福島高専の事務職員として仕事をさせていただいております。着任後半年が経過し秋の季節となりました。時の流れの速さにただただ驚いております。

これまで、自動車や自転車の登録に関する業務や就学支援金関係、アルバイト許可証発行等の業務を行って参りました。

微力ではございますが、本校の発展に尽力して参る所存であります。今後ともよろしくお願いいたします。

大変手短ではありますが、私の挨拶とさせていただきます。



モノづくり教育研究支援センター 福崎 宏 (ふくざき ひろし)

2月1日付けで採用になりました福崎宏です。私は本校の機械工学科を卒業後、長年の間、一般企業で勤務してまいりました。今回、技術職員として採用いただき、創立50周年という節目の年に戻ることができました事を大変光栄に感じております。現在は、主に機械の実習や実験等を担当しています。企業で培ったスキルや経験を学生に上手く伝えられるよう、努力していく所存であります。教育機関という場所での業務は初めてですので、至らぬ点が多々ありますが、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



ものづくり教育研究支援センター 谷地 藍 (やちだて あい)

“技術立国日本”と言われるように、資源の乏しい日本が国際競争力を維持するためには、科学技術の発展が必要不可欠です。科学技術力は国の力であり、次世代を担うエンジニアの卵である高専の学生は、国力の源であると私は考えます。そのような学生たちの人生のひと時に関われることを誇りに思うと同時に身が引き締まる思いです。私自身福島高専の卒業生であり、震災の影響で衰退していく福島を見送ごせないという思いがありました。“Made in Fukushima”の物や人が世界で活躍できるよう日々尽力していきますので、宜しく願い致します。

退職者紹介

物質工学科 鴨下 祐也

総務課 施設管理係長 齋藤 栄一 (東北大学へ)

本校の教育・研究活動にご尽力頂きまして、御礼申し上げます。



平成24年度 ミニ研究発表会

教務主事補 齊藤 充弘

9月25日(火)に第一体育館を会場として、第7回となるミニ研究発表会を開催しました。

ミニ研究は、教員の設定したテーマに基づいて研究し、低学年のうちに「自分で調べる・考える・文章にまとめる・報告する・人前で発表する」という過程を経験することにより、個々の能力を高めることを目的として、2年生を対象に平成18年に導入されました。学生は、自分の所属する学科にとらわれず、自身の興味や問題意識に基づいてテーマを選択し、前期を通して取り組みます。これにより、一般教科や他学科の専門分野に触れることを通して視野を広げ、柔軟な発想を持つことが期待されます。また、級友や友人以外の学生との共同作業を通してコミュニケーションや交流の輪が広がることが期待されます。さらに、校外での活動や人前に出ることを通して礼儀や常識を身につけることが期待されます。まさに、福島高専の特色ある教育の一つとなっています。

今年度は、42のテーマの下に205名の学生が取り組みました。時間割上では、木曜日と金曜日の7校時に開設されましたが、時間を延長して放課後遅くまで取り組む姿や休日に登校して取り組む姿を多くみることができました。また、今年は例年以上に猛暑の夏でありましたが、夏休み期間中にも多くの学生が登校し、取り組む姿勢をみることができました。

このように、一生懸命に取り組んだ成果を披露する発表会は、盛況のうちに終了しました。ポスターによる発表が原則ですが、作品の展示やパフォーマンス、コンピューターなどを用いた視覚に訴えるものを効果的に使う発表が年々増加してきており、進化しています。そのため、発表会場の雰囲気にも明るく活気ある彩りを添えているような印象を与えています。もちろん、内容についても年々進化しているテーマを多くみることが出来ます。初めて聴講した教員の感想として、「2年生で取り組む内容としては、すごい。」という驚嘆の声に、そのことが表れています。

実験や調査にはまだ不慣れなところが多い2年生ではありますが、それをカバーする「真面目さ」と「素直さ」、「継続する姿勢」により、多くの学生が発表するに相応しい成果をあげることができたと思います。今後の学生生活において、今回の経験を活かす場面が必ずあります。課題・レポートの作成、実験・演習、卒業研究をはじめ、毎日の学習を継続することに活かしていってほしいと思います。

発表会には、平日の開催にもかかわらず多くの保護者の皆様にご来場いただき、聴講していただきました。また、来年度取り組む1年生の姿も多くみることができました。さらに、多くの教職員の方々にも聴講と評価に参加していただきました。そして何より、根気強く熱心にご指導いただきましたミニ研究担当の先生方のお力添えにより、無事に発表会まで終了することができました。

皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

平成24年度 校内体育大会

一昨年度から学生会執行部と体育委員会が協力して、校内体育大会を「全員参加でより面白く」しようと、他高専の視察や会議の回数を増やし、種目等の改善を計画してきました。具体的には、学生会予算による大会への支援や雨天時のマニュアル作成、事前の選手登録、新しい意外性のある種目として障害物競争、大縄跳びなどの導入を行いました。

今年の体育大会は、朝から雨模様で雨の大会マニュアルで行いました。反省点はいろいろありますが、新しい種目での導入などで盛り上がりました。また多くの学生が大会の運営に協力したこともあり、とても充実した内容になりました。

体育大会の結果は、電気工学科が総合優勝しました。



第49回東北地区 高専体育大会

7月6日から8日に、本校と秋田高専が主管校として標記大会を開催しました。福島大会では、陸上競技・バスケットボール・卓球・剣道・テニス・バドミントンの競技を行いました。また、10月12日から16日には、ラグビーフットボール競技を実施しました。

大会の結果は、16ページ「クラブ活動等の結果」をご覧ください。



速報

アイデア対決・全国高等専門学校 ロボットコンテスト2012 (東北地区大会)

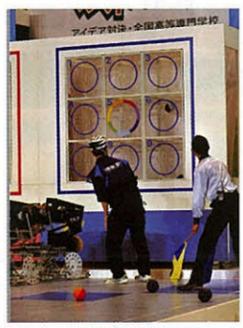
10月28日に、いわき市総合体育館を会場にアイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2012の東北地区大会を開催しました。今年の課題は『ベスト・ペット』でした。東北地区の高専6校7キャンパスから14チームが参加し、出来ばえを競いました。本校から2チームが出場しました。

【本校】

- Aチーム Quick Shooter (クイックシューター)
 指導教員 鈴木 茂和
 選手名 飯塚 将太・岩本 慎太郎・小野 敬裕
- Bチーム Tree hopper (ツリーホッパー)
 指導教員 山本 敏和
 選手名 清水 治憲・藤井 樹・門井 幸太
 残念ながら2チームとも2回戦で敗退してしまいました。

【全国大会出場校】

- 優勝 一関工業高等専門学校B
 梶子兄弟 (ワンコキョウダイ)
- 準優勝 仙台高等専門学校 (広瀬) A
 CAME正宗 (カメササムネ)
- アイデア賞 仙台高等専門学校 (名取) A
 ササリー



祝 福島工業高等専門学校創立50周年記念式典



創立50周年記念式典

50周年記念事業実行委員長 山ノ内 正司

創立50周年記念式典を10月20日、いわき芸術文化交流館「アリオス」で挙行了。来賓、OB教職員、同窓生、在校生、保護者、一般市民など約1500名が出席し、節目を祝うことができました。

式典では、奈良校長が、「社会や地域に必要とされ、いわきから世界へ活躍できる人材の育成をめざしたい。」と式辞を述べました。来賓の田中眞紀子文部科学省大臣 (代理：坂東久美子高等教育局長)、独立法人国立高等専門学校機構理事長小畑秀文 (代理：木谷雅人理事)、佐藤雄平福島県知事 (代理：村田文雄副知事)、渡辺敬夫いわき市長 (代理：鈴木英司副市長)、新原皓一長岡技術科学大学長から祝辞を頂きました。

在校生を代表し、学生会長の高橋雄一君 (電気工学科5年) が、「福島、東北の復興、さらには日本と世界の発展に貢献できる職業人になれるよう、学業、部活動、地域活動などに日々真剣に取り組み、自己啓発に努力することを誓う。」と在校生を代表して復興への誓いを力強く述べました。

式典後には、工業化学科1回生の佐藤辰彦氏 (創成国際特許事務所長、弁理士、学術博士) を講師に迎え、記念講演会を開催しました。講演では「日本、世界、そして未来をつくる若者たちへ」をテーマに、高専時代を振り返るとともに、次世代を担う後輩たちへエールを送りました。

記念講演会の後、いわきワシントンホテル椿山荘で、約300名が集い、記念祝賀会が盛大に行われました。



祝 福島工業高等専門学校創立50周年記念祝賀会

